

施策評価シート(対象:H28年度実施施策)

H29年度評価

施策名	良好な交通環境づくり			総合計画コード	523
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	市長公室(政策企画課)、市民環境部(環境推進課)、都市建設部(道路整備課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	道路に交通安全施設や歩道が整備されているとともに、自動車の速度抑制等の交通規制が適切に行われ、放置自転車がなく、子どもから高齢者までの誰もが安全、快適に道路を利用できるようになっている。また、市内のバス路線を多くの市民が快適に利用できるようになっている。					
施策概要	安全で快適な交通環境を確保するため、地域住民等の意向をふまえながら、地域の特性に応じた交通安全施設や歩道の整備、自動車の交通量や速度の抑制などの交通規制を行う。また、駅や路線バスの利便性向上や安全性確保について関係機関に要望するとともに、市内循環バスを引き続き運行し、運行見直し方針に基づき路線などの見直しを進める。さらに、駅周辺の歩行空間などを活用し、市民が利用しやすい自転車駐車場の整備に努める。					
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市都市計画マスタープラン	計画期間	H	16年度 ~ H	37年度
		朝霞市内循環バス「わくわく号」の運行見直し方針		H	27年度 ~ H	年度
		朝霞市橋梁長寿命化修繕計画		H	25年度 ~ H	年度

2. 実施結果

H28年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全街頭啓発活動を行うとともに、保育園、幼稚園児に交通ルールの指導を行い、小学校では新入児童に交通安全教育を実施した。 小・中学校通学路において交通指導員を配置し立哨指導を行った。 市内循環バスの運行を行いながら、見直し方針に基づき運行見直しの準備を行った。 超低床ノンステップバス等導入促進補助金を交付した。 武蔵野線旅客輸送改善対策協議会、東武東上線改善対策協議会に対し要望活動を行った。 自転車駐車場の指定管理者を選定し、平成29年度から5年間の協定書を締結し、協議を行った。 交通安全対策として、カーブミラー、クリーンベルト、区画線の設置、ゾーン30の指定などを行った。 温室効果ガスの削減に向けアイドリングストップや啓発冊子の配布、ポスターの掲示などを行った。 					
H28年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	交通安全対策に向け警察や交通関係団体との協力において街頭活動を行い、また幼児期から安全教育を行うことで誰もが交通安全に意識啓発を心がけ交通事故を減らすことができた。				
	子育てがしやすいまち	自転車駐輪場においては3人乗り自転車の配置枠を広げた。市内各道路においてカーブミラーやクリーンベルト、ゾーン30の指定などを行い子育て世代に配慮を行った。				
	つながりのある元気なまち	これまでどおり市内循環バスの運行を行いながら、H27年3月に策定した見直し方針に基づき、利用者の利便向上と公共交通空白地区の改善にむけ事業展開を行った。				
	自然・環境に恵まれたまち	温室効果ガスの削減に向け、マイカー利用の抑制とアイドリングストップ、また環境啓発冊子の配布や自転車の利用促進について啓発活動を行った。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度(見込)	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
		450,707	—	—	—	—

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	前期基本計画目標 H32年度
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)	実績(見込)
① 市内循環バス(コミュニティバス)年間利用者数 (説明) 市内循環バス(コミュニティバス)を1年間に利用した延べ人数	人	383,000	391,000	399,000	407,000	415,000
		400,135	—	—	—	—
② (説明)			—	—	—	—

3. 施策の分析

達成度 (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点)
	<input checked="" type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点)
必要性 (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある
施策を進める上での問題点・課題	<input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある
	<input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
(説明) ・自転車駐車場においては、多くの利用者が事故もなく安全に施設を使用することができた。 ・市内循環バスを安全に運行し、利用者数についても目標を達成できた。 ・路線バスに超低床ノンステップバスを2台導入できた。 ・カーブミラーや区画線等の交通安全対策について、市民要望も多い中、大きな遅延もなく要望に応えることができた。 ・橋梁の修繕について、橋梁長寿命化修繕計画に基づき北朝霞陸橋の改修工事を行った。	
(説明) ・自転車駐車場の利用については、引き続き利用者のニーズが多く、必要性は非常に高い。 ・市内循環バスについては、前年度と比較し利用者も増え、通勤通学の足として市民ニーズが定着している。 ・交通安全対策(信号機、カーブミラー、停止線など)に対する市民要望は多く、年々増加傾向にある。 ・駅および駅周辺のバリアフリー化の市民要望は多くあり、特に朝霞駅ではホームドアの設置、朝霞台駅では駅舎改修と合わせたホームドア、エレベーター等の整備を行う必要がある。	
(説明) ・自転車駐車場は、定期利用のキャンセル待ちが多い施設があり、改善を図る必要がある。 ・市内循環バスは、路線ごとに利用率の差があり、見直し指針に沿って見直しを進めていく必要がある。 ・市内各所にある道路の路面表示が消えかかっている箇所が多くあり、計画的に進めていく必要がある。 ・朝霞台駅のバリアフリー化に関連する駅舎改修については、東武鉄道(株)の事業であるため、より強く要望を行っていく必要がある。	

4. 今後の展開方針[部としての判断]

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
	(説明) ・自転車駐車場のキャンセル待ちの削減に向け、定期利用者の枠を増やす工夫や施設内のレイアウトの検討を行う。 ・市内循環バスについては、見直し方針に基づきルートの変更やバス停の移動、増設を行う。 ・交通安全対策(信号機、カーブミラー、停止線など)については、予算の範囲内で優先度に沿って実施する。 ・駅および駅周辺のバリアフリー化について、鉄道事業者に早期実施の要望を引き続き行うとともに、朝霞駅ホームドア設置に係る負担金を支出する。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名		総コスト(事業費+人件費)	有効性 貢献度	優先性 緊急性	H30に向けた 投入資源の方向性
			H27決算	H28決算見込		
	1					
	2					
	3					
	4					
5						
計(単位:千円)				—	—	—
<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載						
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【外部評価委員会】・JR武蔵野線北朝霞駅のホームは、通勤、通学の時間帯は混雑していて大変危険である。ホームドアの設置や、ホーム混雑の解消などについて、駅利用者の安全のために、JRへの要望をさらに進めてほしい。(安全・安心なまちに関する所見より抜粋) 【まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会】・平成27年度の目標値を上回る利用があったことを踏まえ、高齢者の足の確保が重要であるという観点から、目標値の弾力的な見直しを視野に入れるべきである。					
部長の意見	誰もが安全に、安心して移動できる環境を形成するうえで、道路の交通安全対策や公共交通機関のバリアフリー化などは重要な施策であることから、現地の状況に応じて、適切な対策を計画的に行っていく必要がある。このため、道路の交通安全対策や交通安全に関する市民への啓発活動、情報提供については、引き続き適切に行う。また、市内循環バスの運行見直し方針に沿った見直しを早期に実現させ公共交通空白地区の改善を図るとともに、鉄道や路線バスの公共交通機関のバリアフリー化を推進する。特に、朝霞駅のホームドア設置への負担を行うとともに、朝霞台駅のバリアフリー化について、鉄道事業者に強く要望していく。					

施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性

施策名	良好な交通環境づくり		総合計画コード	523	
部名	都市建設部	主管課名	まちづくり推進課	主管課部課コード	050100
関連部課名	市長公室(政策企画課)、市民環境部(環境推進課)、都市建設部(道路整備課)				

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	H30に向けた 投入資源の方向性
		H27決算	H28決算見込			
	1 花と緑のまちづくり事業	29,486	33,812	5	5	現状のまま
	2 橋梁改修事業	—	28,271	5	5	現状のまま
	3 都市計画許可事業	2,565	2,198	3	3	現状のまま
	4 交通安全施設事業	19,352	25,313	4	4	現状のまま
	5 道路安心・安全緊急改良事業	5,109	5,726	5	5	縮小
	6 道路橋梁総務事務事業	—	—	4	4	現状のまま
	7 私道整備助成事業	0	0	5	5	現状のまま
	8 道路施設修繕事業	0	0	5	5	現状のまま
	9 道路改良事業	0	0	5	5	現状のまま
	10 歩道整備事業	0	0	5	5	現状のまま
	11 都市計画総務事務事業	0	0	4	4	現状のまま
	12 観音通線整備事業	0	0	5	4	現状のまま
	13 駅西口富士見通線整備事業	0	0	3	2	H29で休止・廃止・終了
	14 駅東通線整備事業	0	0	4	3	現状のまま
	15 岡通線整備事業	0	0	4	3	縮小
	16 事業用地維持管理事業	0	0	3	3	現状のまま
	17 志木和光線整備事業	0	0	4	4	現状のまま
	18 交通安全啓発推進事業	0	0	5	5	現状のまま
	19 道路整備基本計画見直し事業	0	0	4	4	H29で休止・廃止・終了
	20 交通施策推進事業	964	847	4	4	拡大
	21 市内循環バス運営事業	71,970	75,892	4	4	拡大
	22 オリンピック・パラリンピック事業	0	0	5	5	現状のまま
	23 自転車駐車場管理運営事業	284,124	278,648	4	4	現状のまま
	24 地球温暖化対策推進事業	0	0	4	4	現状のまま
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
施策を 構成する 事務事業の 次年度の 方向性	計 (単位:千円)	413,570	450,707	—	—	—